

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平成30年9月28日
おおい町教育委員会

平成30年4月17日（火）に、小学6年生と中学3年生を対象にした全国学力・学習状況調査が実施され、本町児童生徒も参加しました。町全体としての結果の概要と今後の対応等についてお知らせします。

1 調査の概要

(1) 調査の趣旨（文部科学省より）

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査科目等と内容

①教科

「国語A、算数A・数学A」……主として「知識」に関する問題

- ・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

「国語B、算数B・数学B」……主として「活用」に関する問題

- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する問題
- ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

「理科」……「知識」・「活用」に関する問題

②生活習慣や学習環境

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

2 調査結果

(1) おおい町の児童・生徒の成績

おおい町の児童・生徒の学力がどの程度かを、国や福井県の平均正答率と比較した時、次の表のようになります。

- ☆：国や県の平均正答率より5.0ポイント以上上回っている。
- ◎：国や県の平均正答率より2.5ポイント以上上回っている。
- ：国や県の平均正答率の上下2.5ポイント未満である。
- △：国や県の平均正答率を2.5ポイント以上下回っている。
- ×：国や県の平均正答率を5.0ポイント以上下回っている。

対象学年	小学6年生				
教科・分野	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
全国平均	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
おおい町平均	○	○	△	△	△
県平均	76	57	66	56	64
おおい町平均	×	○	×	×	×

対象学年	中学3年生				
教科・分野	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
全国平均	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
おおい町平均	◎	○	☆	○	◎
県平均	79	64	72	53	71
おおい町平均	○	△	◎	△	○

この表でわかるように、おおい町の6年生は、国語Bでは福井県の児童と比較して同等の力をつけていますが、国語A、算数A・B、理科では課題が見受けられます。中学3年生は、国語A、数学A、理科では福井県の生徒と同等の力をつけていますが、国語B、数学Bでは課題が見受けられます。

(2) 各教科別の分析結果

各教科における学力の状況は、次のとおりです。詳細は、各学校の報告をご覧ください。

<小学校国語>

○良かった点

- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べて考えをまとめることに成果が見られる。
- ・目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることに成果が見られる。

●改善を要するところ

- ・自分の想像したことを物語に表現するために、全体の構成の効果を考えることに課題がある。
- ・計画的に話し合うために、司会の役割について考えることに課題がある。

<小学校算数>

○良かった点

- ・数量や図形についての知識・技能を問う問題に成果が見られる。
- ・図形の構成要素や性質を基に説明する問題に成果が見られる。

●改善を要するところ

- ・小数で、わる数の方が大きい場合の問題場面で、数量関係を捉えることに課題がある。
- ・複数の観点で示された情報とグラフを関連づけて解釈、表現することに課題がある。
- ・図形の構成要素や性質を基に観察し、判断することに課題がある。
- ・数量の関係を基に、数理的に処理し、論理的、発展的に考察し、数学的に表現することに課題がある。

<小学校理科>

○良かった点

- ・骨について、科学的な言葉や概念を理解していることに成果が見られる。

●改善を要するところ

- ・問題に対応した視点で考え、まとめることに課題がある。
- ・学習したことを自然の事物、現象に適用できるようにすることに課題がある。
- ・実験結果を基に分析して考えることに課題がある。

<中学校国語>

○良かった点

- ・文章を読み、情報を整理し内容を捉えることや内容を理解することなど文章の内容把握に成果が見られる。
- ・文脈に即して漢字を正しく書くことに成果が見られる。

●改善を要するところ

- ・文章とグラフの関係を考えながら内容を捉えることに課題がある。
- ・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題がある。
- ・登場人物の言動の意味を考え、内容の理解に役立てることに課題がある。

<中学校数学>

○良かった点

- ・1年で学習した内容の知識や技能を問う問題に成果が見られる。
- ・「数と式」領域の定着に成果が見られる。

●改善を要するところ

- ・平面図形についての基本的な概念や性質、活用することに課題がある。
- ・数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

<中学校理科>

○良かった点

- ・基本的な技能を身につけることに成果が見られる。

●改善を要するところ

- ・基礎的、基本的な知識を理解し、具体的な事柄に当てはめて活用することに課題がある。
- ・自然の事物、現象の中からその原因となる要因を見つけることに課題がある。

(3) 生活態度・学習状況

<小学校>

○良かった点

- ・家庭学習で、授業の予習や復習をしている児童が多い。
- ・社会の事柄や自然の事柄に興味を持っている児童が多い。
- ・テレビやインターネットのニュースを見る児童が増えた。
- ・寝る時刻と起きる時刻が規則正しい児童が増えた。
- ・話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできる児童が増えた。

●改善を要するところ

- ・自分には、良いところがあると思う児童が減少した。
- ・新聞を読んでいる児童が少ない。
- ・地域や社会の問題や出来事に関心を持っている児童が少ない。
- ・地域や社会のために何をすべきかを考えることがある児童が少ない。

＜中学校＞

○良かった点

- ・学校の規則を守っている生徒が多い。
- ・授業の予習、復習をしている生徒が多い。
- ・授業や課外授業で地域との関わりがあると答えた生徒が多い。
- ・将来の夢や目標を持っている生徒が増えた。
- ・読書時間が増えた生徒が増えた。
- ・話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる生徒が増えた。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う生徒が非常に多い。

●改善を要するところ

- ・自分には、良いところがあると思う生徒の割合が低下した。
- ・地域の行事に参加している生徒の割合が低下した。
- ・課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいると思う生徒の割合が低下した。

教育委員会と学校の取り組み

今回の全国学力・学習状況調査で、おおい町の児童生徒の良かった点、改善すべき課題が明らかになりました。明らかになった課題を改善するため、県教育委員会や嶺南教育事務所の指導を受けながら、学力の向上と、豊かな心を持った児童生徒の育成のため、

- ・町教育委員会では、施設や備品の充実、ALT や講師、スクールソーシャルワーカー、支援員の配置など、教育環境の整備や学校の支援に努める。
- ・学校は、課題を改善するための取組を行うとともに、研修や研究をとおして指導力の向上や授業改善などに取り組み、学力向上に取り組む。
- ・町内の学校が連携し、情報交換しながら指導の充実に努める。

以上のように、児童生徒の学力の向上に取り組みますので、ご協力をお願いします。

保護者の皆様へのお願い

今回の調査で、おおい町の児童生徒の良い点や課題が明らかになりました。しかし、国語、算数・数学、理科の限られた教科であることや、紙面の調査であることなどから、把握できたのは学力の一部ですので、この調査結果だけで学力のすべてや学校評価をされないようにお願いします。

児童生徒がしっかり学習出来るためには、生活が安定していることが大切です。規則正しい生活や時間の使い方、将来の目標など、ご家庭でお子さんと話し合ってください、適切な指導をお願いします。

全体の様子について述べましたが、各校からも状況が報告されますので、お子さんの通っておられる学校の状況や取り組みにご理解くださいますようお願いいたします。

なお、各校では、児童生徒を行き過ぎた競争に巻き込むこと、この調査結果だけの学校評価やランク付けになることを避け、平均正答率の公表や記号で表すことも行いませんのでご理解ください。